

享保六巳〇六巳二年三月

深川

總町人共

御奉行所様

〔夢の憂橋〕上八月〇文化十五年深川八幡三十四年目祭禮ニ而殊に今年は身延山尊像同所淨心

寺ニ而開帳有之依て其賑ひいはんかたなし略〇中玄かるに十五日は雨降り十九日に相成當朝

神輿三社第一は八幡宮第二は大神宮第三は春日宮となり外之祭禮は跡より神行なり深川は

橋々の往來群集につき早朝より神輿渡候古例のよしにて既に當朝輿舁百人ほどづゝにて揚

候處いか成事にや三神とも動かす輿より水のたる、事汗の如しかや略〇中四ツ時過群集を

なしやれ橋が落る、それ橋が落るといへども人々更に不入聞折節本所玄ゆもく橋邊にて十七

八歳の女首を切落され候由にて是へ參る人に祭の人一ぱいに相成折から橋向へ一番のだし

を引出せしを、それ祭が渡ると云程こそあれ、エイ〜聲にて又向にはかさなる人にて、鐵棒を

ふり廻し打はらへば橋の上へ逃上り、此方からは押かゝり候、折ふし東の橋詰より一ト間残し、

豎十二間ほどニツ折て落けるにぞ、又跡より押落し候人幾ばくの由、やれ橋が落た〜と呼は

れども、偽とのみ心得しにや、却て押もあり、又中程が落しとこゝろへ、東をさしてにぐるもあり、

又此騒動にそばくの怪我ありとかや、然るに或士橋桁に玄がみつゝ、刀をぬき振回しけるを

見て、夫喧嘩じや、やれ抜たはと云程こそあれ、人々西をさして逃歸る、此仁に助られし人いくば

くか知れずとなり、誠に即智の働き、萬人の命にありとぞ聞へし略〇中

人數大積り橋豎十二間、巾四間程、此坪數四十八坪、但一坪老若二十人詰、凡九百六十人、此目方

九千六百貫目程、但壹人十貫目平均、外ニ落され候人不知と也、

早速川中の船御用船に御引上げ、流る、人御助ありて、怪我人は十が一にも及ばずと、是御威光